

# 簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号  ～  〕(配点 40)

A 次の図の〔0〕～〔9〕は、取引を資産・負債・資本・収益・費用の各勘定口座に記入するさいの記入箇所を示したものである。図にもとづいて、14ページから16ページの問い(問1～5)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。

資産の勘定		負債の勘定		資本の勘定	
〔0〕	〔1〕	〔2〕	〔3〕	〔4〕	〔5〕
費用の勘定		収益の勘定			
〔6〕	〔7〕	〔8〕	〔9〕		

図 資産・負債・資本・収益・費用の勘定

問1 図の〔2〕と〔1〕に記入する取引について、取引要素の結合関係を、次の

①～③のうちから一つ選べ。

- ① 「負債の増加」と「資産の増加」
- ② 「負債の減少」と「資産の増加」
- ③ 「負債の増加」と「資産の減少」
- ④ 「負債の減少」と「資産の減少」

問 2 次の(1)~(4)の取引は、図の〔0〕~〔9〕のどこに記入されるか。空欄

〔イ〕 ~ 〔ケ〕 にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

ただし、〔オ〕・〔カ〕の解答順序、〔ク〕・〔ケ〕の解答順序は問わない。

(1) 青森商店から商品¥ 50 を仕入れ、代金は掛けとした。

3分法による場合：〔イ〕 と 〔3〕

分記法による場合：〔ウ〕 と 〔3〕

(2) 商品(原価¥ 80)を盛岡商店へ¥ 100 で販売し、代金は現金で受け取った。

3分法による場合：〔0〕 と 〔エ〕

分記法による場合：〔0〕 と 〔オ〕 と 〔カ〕

(3) かねて購入していた営業用の土地を整地し、整地費用¥ 100 を現金で支払った。

〔キ〕 と 〔1〕

(4) 本月分の給料¥ 150 の支払いにあたり、所得税額¥ 10 を差し引き、残額を現金で支払った。

〔ク〕 と 〔ケ〕 と 〔1〕

## 簿記・会計

問 3 図の〔2〕と〔9〕に記入する取引を、次の①～③のうちから一つ選べ。ただし、商品売買の記帳は3分法による。

- ① 秋田商店へ商品を売り渡し、代金は掛けとした。
- ② 秋田商店への買掛金の支払いとして、小切手を振り出した。
- ③ 店頭で商品を売り渡し、代金は当店発行の商品券で受け取った。
- ④ さきに秋田商店へ掛けで売り渡していた商品が、品違いのため返品された。

問 4 図の〔4〕と〔1〕に記入する取引を、次の①～③のうちから一つ選べ。なお、引出金勘定は使用しない。

- ① 事業主の所得税を店の現金で納付した。
- ② 従業員のために現金を立て替え払いした。
- ③ 事業主が現金を追加元入れした。
- ④ 事業税を店の現金で納付した。

問 5 図の〔0〕～〔9〕のいずれにも記入されないものを、次の①～③のうちから一つ選べ。

- ① 定額資金前渡法により、用度係に小切手を振り出して前渡しした。
- ② 商品を売り渡す契約を福島商店と結んだ。
- ③ 本月分の水道料金が当座預金から引き落とされた。
- ④ 福島商店から当座預金に振り込みがあったが、その内容が不明である。

## 簿記・会計

B 次の **資料1** は、株式会社である岡山商事(決算は年1回、決算日は12月31日)の取引の一部、 **資料2** は岡山商事の当座預金勘定、 **資料3** は鳥取商事の取引の一部、 **資料4** は鳥取商事の当座預金勘定を示したものである。

これらの資料にもとづいて、19ページから20ページの問い(問1・2)に答えよ。ただし、金額の単位は、別途指示している箇所を除き、すべて千円である。なお、( )は各自で考えること。

### **資料1** 岡山商事の取引の一部

2月1日：広島商事から¥5,000(借入期間8か月、利率年3.6%)を借り入れ、同額の約束手形を振り出した。なお、同額の小切手を受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。

3月1日：額面総額¥10,000の社債を、払込金額@¥100(単位：円)、利率年 **ス** . **セ** %、利払い年2回、償還期限5年の条件で発行し、全額の払い込みを受け、払込金は当座預金とした。

3月30日：さきに行われた株主総会の決議にもとづき、発行済み株式8,000株について1株あたり¥50(単位：円)の配当金の支払いを銀行に委託し、小切手を振り出して支払った。

5月10日：発行可能株式総数20,000株のうち、あらたに1,000株を1株の払込金額¥60で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額の一部は資本金に計上しないことにした。この結果、岡山商事の( )は¥45,000、 **ソ** は¥15,000増加した。

8月31日：3月1日に発行した社債について、第1回の利息を小切手を振り出して支払った。

9月30日：広島商事から2月1日に借り入れた金額について、利息とともに小切手を振り出して返済した。

資料2 岡山商事の当座預金勘定(資料1 以外の取引は省略してある)

当 座 預 金					
2 / 1	タ	5,000	3 / 30	ツ	400
3 / 1	チ	10,000	8 / 31	テ	150
5 / 10	( )	60,000	9 / 30	ト	5,120

資料3 鳥取商事の取引の一部

3月1日：資料1 の岡山商事が発行した社債を売買目的で購入し、代金  
¥ 3,000 は小切手を振り出して支払った。

5月10日：資料1 の岡山商事が発行した株式のうち100株を売買目的で購  
入し、買入手数料¥ 100 とともに小切手を振り出して支払った。

資料4 鳥取商事の当座預金勘定(資料3 以外の取引は省略してある)

当 座 預 金					
			3 / 1	ナ	3,000
			5 / 10	ニ	㊦, ㊧00

問1 資料1・資料2, 資料4 の空欄ソ～ニ にあてはまるものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。ただし、同じものを繰り返し選んでもよい。

ソ ～ ニ の解答群

- |         |         |        |         |
|---------|---------|--------|---------|
| ㉠ 諸 口   | ㉡ 資本準備金 | ㉢ 有価証券 | ㉣ 資 本 金 |
| ㉤ 支払手形  | ㉥ 社債利息  | ㉦ 支払利息 | ㉧ 社 債   |
| ㉨ 利益準備金 | ㉩ 手形借入金 | ㉪ 未払利息 | ㉫ 手形貸付金 |
| ㉬ 引 出 金 | ㉭ 未払配当金 |        |         |

## 簿記・会計

問 2 ,  の空欄  ・ ,  ・  に  
あてはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

## 簿記・会計

**第2問** 資料1 は、個人企業である長崎商店(決算は年1回、決算日は12月31日)の平成×5年7月中のすべての取引である。資料2 は仕訳帳、資料3 は補助簿(一部)、資料4 は総勘定元帳(一部)である。なお、特に指示のある場合を除き、保証債務の時価は¥0とする。

これらの資料にもとづいて、25ページの問い(問1～3)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、( )は各自で考えること。

[解答記号 ア ～ ハ ] (配点 30)

資料1 平成×5年7月中のすべての取引

- 2日：大分商店にA商品を販売し、代金の一部は同店振り出しの約束手形で受け取り、残額は掛けとした。
- 3日：山口商店からA商品を仕入れ、代金は( )商店振り出しの約束手形を裏書譲渡して支払った。なお、保証債務の時価は¥4とする。
- 4日：大分商店から注文があったA商品を発送し、代金の一部について、取引銀行で荷為替を取り組み、割引料を差し引かれた手取金を当座預金とし、残額は掛けとした。
- 5日：山口商店からA商品を仕入れ、代金は売掛金のある大分商店あての為替手形を、大分商店の引き受けを得て、山口商店に振り出した。なお、引取運賃は現金で支払った。
- 8日：かねて北海道商店に注文していたB商品について、船荷証券を受け取った。なお、代金は掛けとした。
- 10日：8日に北海道商店から受け取っていた船荷証券を熊本商店に売り渡し、代金は熊本商店振り出し、当店あての約束手形で受け取った。
- 11日：前月中に受け取っていた、鹿児島商店振り出し、当店あての約束手形が不渡りとなり、同店に対して償還請求を行った。なお、償還請求に要した費用は現金で支払った。
- 13日：販売を委託するため、兵庫商店にB商品を発送した。なお、運賃は現金で支払った。

18日：兵庫商店から、13日に販売を委託したB商品すべてを売り上げたむねの通知(総売上高¥400, 諸掛¥40, 差引手取金¥360)があったが、手取金は受け取っていない。なお、売り上げは手取金額で計上する。

31日：11日に不渡りとなり償還請求を行った約束手形について、鹿児島商店から、請求金額と満期日以後の利息を現金で受け取った。

資料2 7月中のすべての取引を記録した仕訳帳

仕 訳 帳

平成 ×5年	摘 要 (小書きは省略)	元 丁	借 方	貸 方
7	2			
	諸 口 (売 上)			( )
	{ ( ) }		400	
	(仕 入)		( )	( )
	" (ア)		4	
				4
	4			400
	諸 口 (売 上)			
	(手形売却損)		カ	
	(当座預金)		309	
	(売掛金)		( )	
	5			
	(仕 入)	諸 口	( )	( )
		( )		
		(現金)		キク
	8			
	(イ)		200	
		(買掛金)		200
	10			
	( )		( )	( )
	" ( )		( )	( )
		(イ)		
	11			
	(ウ)	諸 口	303	
		( )		
		(現金)		300
				3
	13			
	(エ)	諸 口	260	
		( )		
		(現金)		( )
	18			
	(オ)		( )	( )
		(売 上)		( )
	" ( )		( )	( )
		(エ)		( )
	31			
	(現金)	諸 口	( )	( )
		( )		
		(受取利息)		ケ

簿記・会計

資料 3

7 月中の取引を記録した補助簿(一部)

現金出納帳

平成 ×5年	摘要	収入	支出	残高
7 1	(	2,000		2,000
5	省		( )	( )
11			3	( )
13	略		10	( )
31	)	304		( )

売掛金元帳

大分商店			兵庫商店			
7/1 前月繰越	450		7/5 仕入れ	310	7/1 前月繰越	500
2 売り上げ	回付				18 売り上げ	360
4 売り上げ	85					

商品有高帳

(移動平均法)

品名 A商品

単位 個

平成 ×5年	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
7 1	前月繰越	60	17	1,020				60	17	1,020
2	大分商店				20	17	340	40	17	680
3	山口商店	20	( )	( )				60	回付	( )
4	大分商店				15	( )	( )	45	( )	( )
5	山口商店	( )	回付	( )				60	( )	( )

受取手形記入帳

平成 ×5年	摘要	金額	手形 種類	手形 番号	支払人	振出人 または 裏書人	振出 日	満期 日	支払 場所	てん末	
										日付	摘要
7 2	売り上げ	400	約手	(省略)	大分商店	大分商店	7 2	8 2	(省略)	7 3	裏書譲渡
10	( )	回付	"	(省略)	熊本商店	熊本商店	7 10	8 10	(省略)		

資料4 7月中の取引を記録した総勘定元帳(一部)

仕 入				売 上			
7/3 ( ) ( ) ( ) ( )			㊦㊧㊨	7/2 諸 口			520
5 諸 口	330			4 諸 口			400
( ) ( ) ( )				10 ( )			280
18 ( ) ( )				( ) ( )		㊩㊪	0

問 1 資料1 にもとづいて、資料2 の空欄 ア ~ オ にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア ~ オ の解答群

- ㊫ 保証債務 ㊬ 売掛金 ㊭ 当座預金 ㊮ 保証債務取崩益  
 ㊯ 仕 入 ㊰ 未着商品 ㊱ 支払手形 ㊲ 不渡手形  
 ㊳ 受取手形 ㊴ 貸倒償却 ㊵ 積送品 ㊶ 手形売却損  
 ㊷ 未収金 ㊸ 保証債務費用

問 2 資料2 ~ 資料4 の空欄 カ ~ ヌ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 7月中に仕入勘定の借方に記入された金額の合計は、¥1, **ネ** **ノ** **ハ** である。空欄 **ネ** ~ **ハ** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

簿記・会計

**第3問** 個人企業である宮城商店(決算は年1回, 決算日は12月31日)は, 本店のほかに支店をもっており, 支店の会計は本店から独立している。

資料1 は本店における期末の合計試算表(決算整理前), 資料2 は本店における総勘定元帳の一部, 資料3 は本店における決算整理事項等, 資料4 は本店における損益勘定および繰越試算表, 資料5 は本支店間の未達事項である。

これらの資料にもとづいて, 29ページの問い(問1~4)に答えよ。ただし, 金額の単位はすべて千円である。なお, ( )は各自で考えること。

[解答記号 **ア** ~ **ヒ**] (配点 30)

資料1 本店における期末の合計試算表(決算整理前)

合 計 試 算 表			
平成×5年12月31日			
借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
1,176		現 金	640
2,253		当 座 預 金	1,586
750		売 掛 金	<b>ア</b> <b>イ</b> <b>ウ</b>
3	(	貸 倒 引 当 金	3
180		有 価 証 券	90
240		繰 越 商 品	
70	省	前 払 家 賃	<b>エ</b> <b>オ</b>
364		備 支 店	60
( )		買 掛 金	1,030
700		借 入 金	1,400
600		未 払 利 息	6
6		資 本 金	1,200
4		引 出 金	1,600
		売 上 益	8
910	略	有 価 証 券 売 却 益	72
500		仕 入 料	
( )		給 付 家 賃	
24	)	支 払 家 賃 息	( )
1		支 払 倒 償 却	
8,121			8,121

資料2 本店における総勘定元帳の一部(日付のない記入は、相手の勘定科目ごとに期中取引の合計金額を示したものである)

売掛金		貸倒引当金	
1/1 ( ) 150	( ) 3	<b>力</b> 3	1/1 ( ) 3
売上 ( )	貸倒償却 ( )	12/31 ( ) ( )	12/31 <b>キ</b> ( )
	当座預金 346	( )	( )
	12/31 ( ) 400		
( )	( )		

  

支払家賃		支払利息	
1/1 ( ) ( )	12/31 <b>ク</b> ( )	当座預金 24	1/1 ( ) 6
当座預金 ( )	" ( ) 125	12/31 ( ) ( )	12/31 <b>ケ</b> ( )
( )	( )	( )	( )

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料3 本店における決算整理事項等

- 期末商品棚卸高は¥ 242 である。
- 売掛金の期末残高に対して2%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- 備品の減価償却を行う。減価償却は直接法によって記帳している。
- 有価証券は、売買目的で保有する株式であり、時価に評価替える。
- 家賃は毎年8月1日に1年分を前払いしている。平成×5年8月から1年間の家賃は¥ 132 である。家賃の前払分を次期に繰り延べる。
- 借入金の期末残高は、平成×5年10月1日に、年5%の利息(借入期間1年、利払日は3月末日と9月末日)で借り入れたものである。
- 支店は当期純利益¥( )を計上し、本店はこの報告を受けた。
- 引出金を整理する。

簿記・会計

資料4 本店における損益勘定および繰越試算表

損			益		
12/31	仕入	コサシ	12/31	売上	1,600
"	給料	500	"	有価証券売却益	8
"	支払家賃	( )	"	有価証券評価益	7
"	( )	28	"	タ	10
"	貸倒償却	ス			
"	減価償却費	セソ			
"	( )	91			
		1,625			1,625

繰越試算表

平成×5年12月31日

借方	円	勘定科目	貸方
536		現金	
667		当座預金	
( )	( )	売掛金	( )
チツ	省	貸倒引当金	
( )		有価証券	
テト		繰越前払家賃	
328		前払支店	
88	略	備支店	
	( )	買掛金	330
		借入金	800
		未払利息	ナニ
		資本	1,又ネノ
2,435			2,435

## 資料5 本支店間の未達事項

- (1) 支店から本店に送付した現金¥10が、本店に未達である。  
 (2) 本店から支店に送付した商品¥12(原価)が、支店に未達である。

問1 資料1・資料2にもとづいて、資料1の空欄ア～オ

にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問2 資料2, 資料4の空欄カ～ケ, タにあてはまるも

のを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

カ～ケ, タの解答群

- |        |        |           |        |
|--------|--------|-----------|--------|
| ⑩ 前期繰越 | ① 次期繰越 | ② 未払家賃    | ③ 未払利息 |
| ④ 損益   | ⑤ 資本金  | ⑥ 前払家賃    | ⑦ 前払利息 |
| ⑧ 貸倒償却 | ⑨ 売掛金  | ② 貸倒引当金戻入 | ⑧ 支店   |
| ⑨ 本店   |        |           |        |

問3 資料4の空欄コ～ソ, チ～ノにあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問4 支店における本店勘定の次期繰越高は、¥ハヒである。ただし、未達取引の整理は総勘定元帳には記帳していない。空欄ハ・ヒにあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。